

日本国特許庁

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

#2
JC987 U.S. PTO
09/774699
02/01/01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日

Date of Application:

2000年 7月19日

出願番号

Application Number:

特願2000-219708

出願人

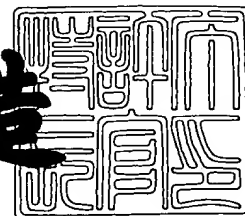
Applicant(s):

富士通株式会社

2000年12月 8日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2000-3101678

【書類名】 特許願

【整理番号】 0051487

【提出日】 平成12年 7月19日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 17/60

【発明の名称】 製品情報システム及び製品情報管理方法及び製品情報プログラムを記憶した記録媒体

【請求項の数】 7

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号 富士通株式会社内

 【氏名】 藤田 一郎

【特許出願人】

 【識別番号】 000005223

 【氏名又は名称】 富士通株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100108202

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 野澤 裕

 【電話番号】 044-754-3035

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 011280

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

 【包括委任状番号】 9913421

【ブルーフの要否】 要

【書類名】明細書

【発明の名称】製品情報システム及び製品情報管理方法及び製品情報プログラム
を記憶した記録媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ネットワークを介して複数の利用者と複数のメーカとの仲介を行うための製品
情報システムであって、

前記利用者の所有している製品の購入に関する情報を保存する保存手段と、

前記保存手段に保存された製品の購入に関する情報を元に、製品に関する保険
の依頼を行う保険依頼手段と

を備えたことを特徴とする製品情報システム。

【請求項 2】

ネットワークを介して複数の利用者と複数のメーカとの仲介を行うための製品
情報システムであって、

前記利用者の所有している製品の購入に関する情報を保存する第一の保存手段
と、

複数のメーカが製造販売しているそれぞれの製品について、少なくとも該製品
の識別子と、該製品の保証に関する情報とを保存する第二の保存手段と、

前記第一または第二の保存手段に保存された情報を元に、製品に関する保険の
依頼を行う保険依頼手段と

を備えたことを特徴とする製品情報システム。

【請求項 3】

請求項 1 または 2 記載の製品情報システムであって、

前記保険依頼手段は、少なくとも製品の使用年数または購入時期または製品の保
守についての情報を含んだ情報を送信することを特徴とする製品情報システム。

【請求項 4】

請求項 1 または 2 記載の製品情報システムであって、

前記保険依頼手段は、前記利用者の所有する複数の製品をまとめて一つの保険に
加入するための情報を送信することを特徴とする製品情報システム。

【請求項 5】

請求項 1 または 2 記載の製品情報システムであって、
前記保険依頼手段は、複数の業者へ保険の見積もり依頼を行う見積もり手段と
前記見積もり手段で得た見積もり結果の中から、前記利用者が選択した業者へ
前記利用者からの保険の申し込みを送信する申し込み手段と
を備えたことを特徴とする製品情報システム。

【請求項 6】

ネットワークを介して複数の利用者と複数のメーカーとの仲介を行うための製品
情報管理方法であって、
前記利用者の所有している製品の購入に関する情報を受付けるステップと、
前記ステップで保存された製品の購入に関する情報を元に、製品に関する保険
の依頼を行うステップと
を含むことを特徴とする製品情報管理方法。

【請求項 7】

ネットワークを介して複数の利用者と複数のメーカーとの仲介を行うための製品
情報システムを動作させるためのプログラムを格納した記憶媒体であって、コン
ピュータを動作させて、
前記利用者の所有している製品の購入に関する情報を保存する保存手段と、
前記保存手段で保存された製品の購入に関する情報を元に、製品に関する保険
の依頼を行う見積もり手段と
を機能させるためのプログラムを格納したことを特徴とする記憶媒体。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ネットワークを利用した、複数の利用者と複数のメーカーとの情報伝
達の仲介を行うための製品情報システムに関する。

【 0 0 0 2】

【従来の技術】

従来、利用者が製品を購入する際には、製品の保証を目的として保険に入ることができる。例えば、高価な製品を購入した利用者は、その製品の盗難に備えて盗難保険や、破損に備えて破損保険等の保険をかけることができる。

【0003】

また、高価な製品でなくても電気製品等については、製品の新規購入時に販売店舗がメーカーの保証書を有効にする手続きを行うことで、メーカー側が利用者に対して購入後1年間の故障を無料で保守するというような内容の保守契約を結ぶことができる。利用者はこのような保証を利用することで、購入直後の製品の故障については無料で保守を受けることができる。

【0004】

このような保険や保証は、主に個々の製品毎に契約されるものであって、製品の購入時に店頭で契約が行われたり、購入した製品の保険サービスを行っているクレジットカードを利用した購入時に、自動的に契約が発生したりするのが一般的である。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

しかし上述の状況においては、利用者が保険や保証に加入する契機は、製品購入直後に限られており、さらに一般家庭においては、製品購入時に添付される保証書や仕様書等を必ずしも正確に保管しているとは限らないため、利用者が過去に購入した製品について、何らかの保証を受けたり保険に加入したいという希望を持っていても、保証書や仕様書等を探し出して直接メーカーに連絡したり、利用者自身で直接保険業者に問い合わせをする等の手間が必要になり、利用者にとっては大きな手間が生じていた。

【0006】

また、保険に加入する際には、同一の利用者が所有している複数の製品であってもそれぞれについて個々に加入手続きをとることを求められるため、利用者には大きな手間がかかり、また個々の保険料を合算すると、保険料額が大きくなってしまうという不都合が生じていた。

【0007】

本発明は上述の問題点を解決するために、ネットワークを利用して複数の利用者と複数の業者との情報伝達を仲介するための製品情報システムを提供することを目的とする。

【 0 0 0 8 】

【課題を解決するための手段】

本発明は、利用者の所有している製品の購入に関する情報を保存する保存手段と、前記保存手段に保存された製品の購入に関する情報を元に、製品に関する保険の依頼を行う保険依頼手段とから構成される。

【 0 0 0 9 】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施例について図面を用いて説明する。図 1 は本発明を実現するためのシステム構成図である。図示のように、本実施例の製品情報システムは、利用者からの製品情報や個人情報を入力を受付ける受け付けプログラム 1 0 1 と、保険業者へ保険料の見積もり依頼を送信し、その依頼に対する見積もり回答を受け取る見積もりプログラム 1 0 2 と、利用者の指定した保険業者へ利用者の指定した保険の申し込みや、保険利用の申し込みを行う申し込みプログラム 1 0 3 と、利用者の個人情報や所有している製品の情報や保険を取り扱う業者の情報や各メーカーが販売している製品に関する情報等を本システムのデータとして登録し更新する DB 更新プログラム 1 0 4 とを備える。

【 0 0 1 0 】

また、利用者が所有している製品毎に製品の情報を記録した所持品 DB 1 0 6、利用者の個人情報を記録した利用者 DB 1 0 7、各メーカーの販売製品毎に製品の情報を記録した製品マスタ 1 0 8、保険業者の連絡先や取り扱う保険内容などを記録した業者マスタ 1 0 9、利用者と各業者との間に行われた取引を記録する履歴 DB 1 1 0、各メーカーの保守情報を記録した保守マスタ 1 1 1 を備える。

【 0 0 1 1 】

また、本システムは、本システムにデータを与えるための入力手段 1 2 1 や、データを出力するための出力手段 1 2 2 を備え、通信回線を通じて利用者の端末 1 3 1 や、保険業者の端末 1 3 2 や、製品を製造販売しているメーカー 1 3 3 等と

データの送受信を行う。なお、図中の利用者端末 1 3 1 や保険業者端末 1 3 2 やメーカ端末 1 3 3 は、それぞれ複数存在してもよい。

【 0 0 1 2 】

図 2 は、受付プログラム 1 0 1 が利用者の端末 1 3 1 に向けて出力する表示画面例である。受付プログラム 1 0 1 はこのような画面を出力し、利用者からどのサービスをどの製品について受けたいかについての指示を受付ける。

【 0 0 1 3 】

例えばこの画面から「実行」がクリックされた場合には、この利用者が所有している、製品種別がパソコンで、製品名が P C - A で、メーカが F 社で、型名が F G H C 4 5 3 で、製造番号が R 6 6 0 6 0 で、1 9 9 8 年 1 2 月に購入した製品について、保険に加入するための見積もり依頼をするという指示を受付けたことになる。

【 0 0 1 4 】

図 3 は、申し込みプログラム 1 0 3 が利用者の端末 1 3 1 に向けて出力する表示画面例である。申し込みプログラム 1 0 3 は、見積もりプログラム 1 0 2 が保険業者から得た回答内容を元にこのような画面を出力し、利用者へ自分がどの製品について保険を申し込もうとしているかを示すとともに、どの保険に加入するかかの指示を受付け、受付けた内容をもとに、指示された保険業者へ保険の申し込み情報を送信する。

【 0 0 1 5 】

例えばこの例では、この利用者は P C - A というパソコンと X 冷蔵庫という冷蔵庫について保険に加入しようとしていることを示しており、また、見積もり回答のあった A 社の破損保険、B 社の盗難保険、C 社の出張修理保険と盗難保険の中から、C 社の出張修理保険に加入するという指示を受付けたことになる。

【 0 0 1 6 】

利用者が利用者登録をしていない場合には、「新規登録」を選択することで、新規に利用者登録を行うことができる。

【 0 0 1 7 】

図 4 は、見積もり依頼を受けた保険業者が見積もり回答を送信する際の表示画

面例である。図 2 に例示する見積もり依頼として受付けた情報を元に、本システムは、保険業者の端末 1 3 2 に見積もり回答用画面として、図 4 に示すような画面を出力する。ここでは、利用者から指定された製品情報に、例えば製造年月や保証期間等の製品マスタ 1 0 8 を参照して得られる製品の保証に関する情報と、保守マスタ 1 1 1 を参照して得られる製品の保守に必要な基本技術料に関する情報、また既に登録済みの製品であれば所持品 DB 1 0 6 を参照して過去の修理履歴などの情報も付加して保険業者へ提示する。

【 0 0 1 8 】

保険業者はこれらの情報を参照し、提供できる保険名や保険種別、保険期間、保険料などの情報を算出して入力し、見積もり回答として送り返す。この際に購入年月の情報が無ければ、製造年月の情報を代替情報として利用することも可能である。また保険料の算出は、プログラムを利用して、購入年月または製造年月や基本技術料などの情報をもとに算出するようにしてもよい。

【 0 0 1 9 】

図 5 は、所持品 DB 1 0 6 のデータ例である。所持品 DB 1 0 6 は利用者が所有している製品毎に製品の情報を記録するために、利用者を一意に識別するための利用者 ID や、利用者の所持品をそれぞれ識別するための所持品 ID や、製品のカテゴリを表す製品種別、メーカー名、製品名、型名、各製品を一意に識別するためにメーカーが割り振っている製造番号や、購入年月や、購入業者名や、利用者がその製品について行った取引を識別する取引 ID などを記録する。

【 0 0 2 0 】

例えばこの例では、利用者 ID が 1 0 7 1 4 の利用者は、所持品 ID が 1 であるパソコンの PC - A と、所持品 ID が 2 である冷蔵庫の X 冷蔵庫を所有しており、パソコン PC - A については、型名が F G H C 4 5 3 で、製造番号が R 6 6 0 6 0 で、1 9 9 8 年 1 2 月に F - W e b M a r t から購入されており、取引 ID が二つあることから、過去に二回の取引を行っていることがわかる。

【 0 0 2 1 】

同様に、利用者 ID が 1 0 7 1 5 の利用者の所持品である Z テレビや、前述の利用者 ID が 1 0 7 1 4 の利用者の所持品である X 冷蔵庫についても、それぞれ

についての情報が記録されている。

【 0 0 2 2 】

図 6 は、利用者 DB 1 0 7 のデータ例である。利用者 DB 1 0 7 は利用者の個人情報記録するために、利用者を一意に識別するための利用者 ID や、利用者登録を行った日時や、利用者の氏名、住所、郵便番号、電話、電子メールアドレス、支払いに用いるクレジットカード番号などを記録する。

【 0 0 2 3 】

例えばこの例では、青山太郎という利用者が利用者 ID の 1 0 7 1 4 として、1 9 9 9 年 1 0 月 7 日に利用者登録を行っており、住所は東京都 X X 区、郵便番号は 1 2 3 - 1 2 3 4、電話番号は 0 3 - 1 2 3 4 - 5 6 7 8、電子メールアドレスは t a r o @ a a a . c o m、クレジットカード番号は 1 2 3 4 - 5 6 7 8 - 9 0 0 0 であることが記録されている。同様に利用者 ID が 1 0 7 1 5 の柿本花子や、同じく 1 0 7 1 6 の佐川健太についても記録されている。

【 0 0 2 4 】

利用者は必ずしもこれらの個人情報を全て登録する必要はなく、何らかのサービスを受けて支払いを行う必要が生じたり、配送を受ける必要が生じたりするまでは、クレジットカードに関する情報や住所等の情報を入力しなくても構わない。図 5 に示す所持品 DB 1 0 6 とこの利用者 DB 1 0 7 とは、利用者 ID によりそれぞれデータを関連付けることができる。

【 0 0 2 5 】

図 7 は、製品マスタ 1 0 8 のデータ例である。製品マスタ 1 0 8 は各メーカーの販売製品毎に製品の情報を記録するために、メーカー名、製品を一意に識別するための製造番号、製品名、型名、製造年月、保証期間などを記録する。この製品マスタ 1 0 8 への情報登録は、利用者からの保険申し込みに関する処理を行う前に、本システムが予めメーカー 1 3 3 と連携をとって行われるものである。

【 0 0 2 6 】

例えばこのマスタを参照すれば、F 社の製品で製造番号が R 6 6 0 6 0 である製品については、製造番号から R 6 6 0 1 0 と R 6 7 0 0 0 の間に該当することがわかるので、製品名が P C - A で、型名が F G H C 4 5 3 で、製造年月が 1 9

98年10月で、保証期間が製造から6ヶ月であることがわかる。同様にF社のPC-SERVERや、S社のZテレビやM社のX冷蔵庫についてもそれぞれの製品に関する情報が記録されている。

【0027】

図5に示す所持品DB106とこの製品マスタ108とは、製造番号によりそれぞれデータを関連付けることができるので、利用者から入力された製品情報について不足項目がある場合には、この製品マスタ108を参照することで、所持品DB106の該当項目を埋めることができる。

【0028】

図8は、業者マスタ109のデータ例である。業者マスタ109は保険業者の連絡先や取り扱う保険内容などを記録するために、保険会社名や、その会社に見積もり依頼や保険の申し込みを送る際に利用する連絡先や、取り扱っている保険の種別などを記録する。この業者マスタ109への情報登録は、利用者からの保険申し込みに関する処理を行う前に、本システムが予め保険業者132と連携をとって行われるものである。

【0029】

例えばこの例では、A保険はAA@a-hoken.comという電子メールアドレスによって連絡が可能であり、破損保険を取り扱っていることが記録されている。同様に、B保険やC保険についてもそれぞれの情報が記録されている。見積もりプログラム102や申し込みプログラム103は、この業者マスタ109を参照することにより、各保険業者へ利用者から受付けた情報を送信する際の送信先を得ることができる。

【0030】

図9は、履歴DB110のデータ例である。履歴DB110は利用者と各業者との間に行われた取引を記録するために、取引を一意に識別するための取引IDや、取引種別や、取引を行った品名や、取引の開始終了日時や、取引相手である取引業者名や、取引により支払われるべき金額や、支払われた方法などを記録する。

【0031】

例えばこの例では、取引IDがK-19991007-01として、消耗品である感熱紙を1999年10月7日に2500円でF社から代金振込みにより購入していることがわかる。同様に他の取引についてもそれぞれに関する情報が記録されている。図5に示す所持品DB106とこの履歴DB110とは、取引IDによりそれぞれデータを関連付けることができる。

【0032】

図10は、保守マスタ111のデータ例である。保守マスタ111は各メーカーの販売製品の製品種別毎に保守情報を記録するために、製品種別毎に、メーカー名、無償修理期間、保証の起算時点、保守拠点数、保守のための基本技術料などを記録する。この保守マスタ111への情報登録は、利用者からの保険申し込みに関する処理を行う前に、本システムが予めメーカー133と連携をとって行われるものである。

【0033】

例えば図10に例を示す保守マスタ111を参照すれば、冷蔵庫という製品種別では、M社は、訪問修理はせずに製造後12ヶ月間の持ち込み修理に対応おり、保守拠点は全国に60ヶ所あり、保守に必要な基本技術料は2時間の作業で4800円であることがわかる。同様にS社やA社についてもそれぞれの製品に関する情報が記録されている。

【0034】

図5に示す所持品DB106とこの製品マスタ108とは、製品種別によりそれぞれデータを関連付けることができるので、利用者から入力された製品情報について保守マスタ111から該当項目を参照し、図4に示すような保険業者向けの見積もり回答画面を出力する際に、保険対象製品についてのメーカーの保守情報を付加することができる。

【0035】

次に、フロー図を用いて本発明の動作例を説明する。図11は、本システムが利用者の情報を登録する際のフローである。本システムは、保険の申し込みのような、個人情報が必要になる場合に利用者へ情報の登録を促す。また利用者への情報入力促進は、情報入力が必要になる以前のタイミングに行われても構わず、

例えば、利用者が保険の見積もり依頼を行う際に入力した情報を、そのまま所持品情報として登録すると同時に、個人情報を入力するよう促すこともできる。

【0036】

ST91で本システムが利用者からの個人情報の入力を受付けると、ST92で本システムは、受付けた個人情報をDB更新プログラム104を介して、利用者DB107へ登録する。新規の登録であった場合には、利用者IDを新規に採番し、利用者ID欄へ登録するとともに、利用者へ利用者IDを通知する。

【0037】

図12は、本システムのメイン処理フローである。ST01とST02で、図2に示すような画面で利用者から製品情報と「保険に加入したい」という指示を受付けると、受付けプログラム101は受付けた情報を一時的に保存する。

【0038】

この際には、製品情報は一つずつではなく、図2に示す画面例のように、「他の製品も入力」する指示があれば、続けて他の製品の入力用画面を出力することで、他の製品情報もあわせて受付けることも可能であり、さらには「登録済製品から選択」する指示があれば、利用者IDの入力を促して、既に登録済みの所持品DB106を参照し、登録していた複数の所持品の中から、今回の処理対象となる製品の指定を受付けることもできる。

【0039】

続いて、見積もりプログラム102がST03で業者マスタ109を参照し、各業者の連絡先に関する情報を参照する。そしてST04で見見積もりプログラム102は、その連絡先へST02で受付けプログラム101が一時的に保存した情報を、保険の見見積もり依頼として保険業者へ送信する。

【0040】

送信する際には、利用者から受付けた製品情報と、予め登録してある製品マスタ108や保守マスタ111とは製造番号や製品種別などにより相互に関連付けができるため、利用者から入力された情報にこれらマスタから得られる製造年月や保証に関する情報等を付加し送信する。

【0041】

ST05で見積もりプログラム102は、本システムからの見積もり依頼に対応した各業者から見積もり回答を受付ける。そしてST06で、受付けプログラム101が一時的に保存した情報とあわせ、ST05で受付けた見積もり回答情報を、例えば図3に示すような利用者に見やすいかたちに加工して出力する。

【0042】

ST07で、申し込みプログラム103は、利用者から保険申し込み先の指定を受付ける。例えば図3に示す例では、利用者IDが10714である利用者からC保険業者の修理CCという保険を申し込むという指定を受付けている。

【0043】

利用者からの申し込みに応じて、ST08で申し込みプログラム103は、この利用者が既に利用者DB107に登録してあるかどうかを判定する。図3に示す例では、利用者から利用者IDが入力されているため、既に利用者DB107への登録が済んでいるものと判断し、ST10へ処理を進める。ここで利用者IDが入力されずに新規登録の指定を受付けた場合には、利用者登録処理ST09へ処理を進める。

【0044】

ST09の利用者登録処理は、図11に示すフローに従って処理が行われる。ここでは受付けプログラム101は、利用者DB107の項目にある氏名、住所、電子メールアドレス、支払いを行うカード番号等の情報の入力を利用者から受付けて、新規に利用者IDを採番し、新規採番したIDとともに受付けた情報をDB更新プログラム104を介して利用者DB107へ登録する。新規に採番した利用者IDは、利用者に通知する。

【0045】

ST10で、受付けプログラム101は、利用者の所有する製品についての情報を受付け、DB更新プログラム104を介して所持品DB106へ登録する。今回の場合には、既に受付けプログラム101が受付けて一時的に保存している情報を利用できるため、購入業者名など所持品DB106の項目にある残りの情報についての入力を受付ける。そして所持品IDを新規に採番し、受付けた情報とあわせてDB更新プログラム104を介して所持品DB106へ登録する。こ

の際、同データの利用者ID欄には、ST09で新規に登録した場合は新規に採番した利用者IDを、利用者から直接利用者IDを受付けた場合は受付けたIDを登録し、利用者DB107と所持品DB106の関連付けを行う。

【0046】

情報の登録に続き、申し込みプログラム103はST11で利用者DB107と、所持品DB106を参照し、利用者の個人情報と保険を申し込むべき製品の情報とから保険の申し込みに必要な情報を抽出し、ST12で指定された保険業者へ申し込みを送信する。

【0047】

例えば図3に示す例では、申し込みプログラム103は、利用者DB107から利用者IDが10714である利用者に関する情報と、所持品DB106から先に受付けプログラム101が一時保存していた製品情報であるパソコンPC-Aと冷蔵庫X冷蔵庫に関する情報とを参照し、利用者から指定されたC保険会社の連絡先CC@c-hoken.comへ、保険の申し込みを送信する。

【0048】

ST13で申し込みプログラム103は、申し込み先の保険業者から申し込み受付けの確認を受信すると、ST14で、利用者へ向けて、保険の申し込みが完了したことを通知するための出力を行う。

【0049】

そしてST15でDB更新プログラム104は、保険申し込みの取引を記録するために、所持品DB106と履歴DB110へ取引IDを新規採番し追加登録する。また、新規採番した取引IDを保険業者へ通知する。

【0050】

例えば今回の取引では、利用者ID10714の利用者がパソコンPC-Aと冷蔵庫X冷蔵庫についてC保険会社に出張修理の保険の申し込みを行ったため、所持品DB106の該当欄に、新しい取引IDとしてH-20000607-01とH-20000607-02をそれぞれ新規に採番して登録し、更に履歴DB110へ新規データとして、所持品DB106に登録した取引IDに対応した取引内容に関する情報を登録する。

【 0 0 5 1 】

図 1 3 は、利用者から保険利用の指定を受けたときの処理フローである。受け付けプログラム 1 0 1 は、S T 3 1 で「保険を利用したい」という指定と利用者 I D の入力を受け付け、S T 3 2 で製品情報の入力を受け付ける。この際には、利用者 I D をキーとして所持品 D B 1 0 6 を検索し、この利用者が登録している製品を一覧表示して選択させるようにすることも可能である。

【 0 0 5 2 】

S T 3 3 で申し込みプログラム 1 0 3 は受け付けプログラム 1 0 1 が S T 3 1 と S T 3 2 で受け付けた内容を元に所持品 D B 1 0 6 からメーカーに関する情報と該当製品に関連付けて登録されている取引 I D を得る。さらに、取引 I D を元に履歴 D B 1 1 0 を参照し、該当する保険と保険業者を特定する。

【 0 0 5 3 】

続いて S T 3 4 で、申し込みプログラム 1 0 3 は S T 3 3 で特定したメーカーへ、保険業者が保険を特定するための取引 I D と、利用者情報や製品情報や保険業者に関する情報を送信する。

【 0 0 5 4 】

メーカー側は S T 3 4 で送信された情報をもとにサービスを実施し、S T 3 5 で、対価の請求を取引 I D とともに保険業者へ送信する。

【 0 0 5 5 】

S T 3 6 で、メーカーから保険料請求の申し込みを受け取った保険業者は、取引 I D をもとに対象となる保険を特定し、請求された金額の支払い手続きを行う。

【 0 0 5 6 】

本発明の製品情報システムは上記説明のように動作するので、利用者から指定された複数の製品情報を元に、容易に複数の保険業者へ見積もり依頼を送信したり、適切な保険業者へ保険の申し込みを行ったり、過去に申し込んだ保険を利用者に利用させたりすることができる。

【 0 0 5 7 】

また、本発明の製品情報システムは、上記説明した構成にとらわれるものではなく、製品の各メーカー 1 3 3 と連携し、製品マスタ 1 0 8 は本システムではなく

、各メーカー内に蓄積されるような構成をとることも考えられる。

【 0 0 5 8 】

【発明の効果】

以上説明したように本発明によれば、利用者は本システムへ所有する製品についての情報を登録することにより、複数の保険取り扱い業者へ製品の見積もり依頼を行うことができ、その見積もり結果を元に、最適な保険業者へ製品の保険を申し込むことができる。従って、利用者は製品の新規購入時だけでなく、自分が保険に加入したいと思ったときに、いつでも保険加入の手続きを行うことができるようになる。

【 0 0 5 9 】

また本システムによれば、登録した複数の所持品についてまとめて一つの保険として申し込むことができるため、利用者は一回の手続きで、個々の製品について保険に加入するよりも割安な保険料で、保険に加入できるようになる。

【 0 0 6 0 】

更に利用者は、保険に加入したい製品についての詳細情報がわからなくても、本システムが各製品メーカーからの製品に関する情報を保持し利用者からの情報の不足分を補足するため、利用者は製品に関する詳細な情報が不明であっても、保険加入の申し込みを行うことができる。

【 0 0 6 1 】

一方保険業者は、営業活動を活発に行わなくても、利用者から保険の申し込みを得ることができ、また更には、各製品について、購入年月から推測できる使用期間やメーカーの保証に関する情報がわかるため、適切な保険料率を算出することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明を実現するためのシステム構成図である。

【図 2】

受付プログラム 1 0 1 が利用者に向けて出力する画面例である。

【図 3】

申し込みプログラムが利用者に向けて出力する画面例である。

【図 4】

保険業者が見積もり回答を送信する際の表示画面例である。

【図 5】

所持品 DB のデータ例である。

【図 6】

利用者 DB のデータ例である。

【図 7】

製品マスタのデータ例である。

【図 8】

業者マスタのデータ例である。

【図 9】

履歴 DB のデータ例である。

【図 1 0】

保守マスタのデータ例である。

【図 1 1】

本システムが利用者の情報を登録する際のフローである。

【図 1 2】

本システムのメイン処理フローである。

【図 1 3】

保険利用の指定を受けたときの処理フローである。

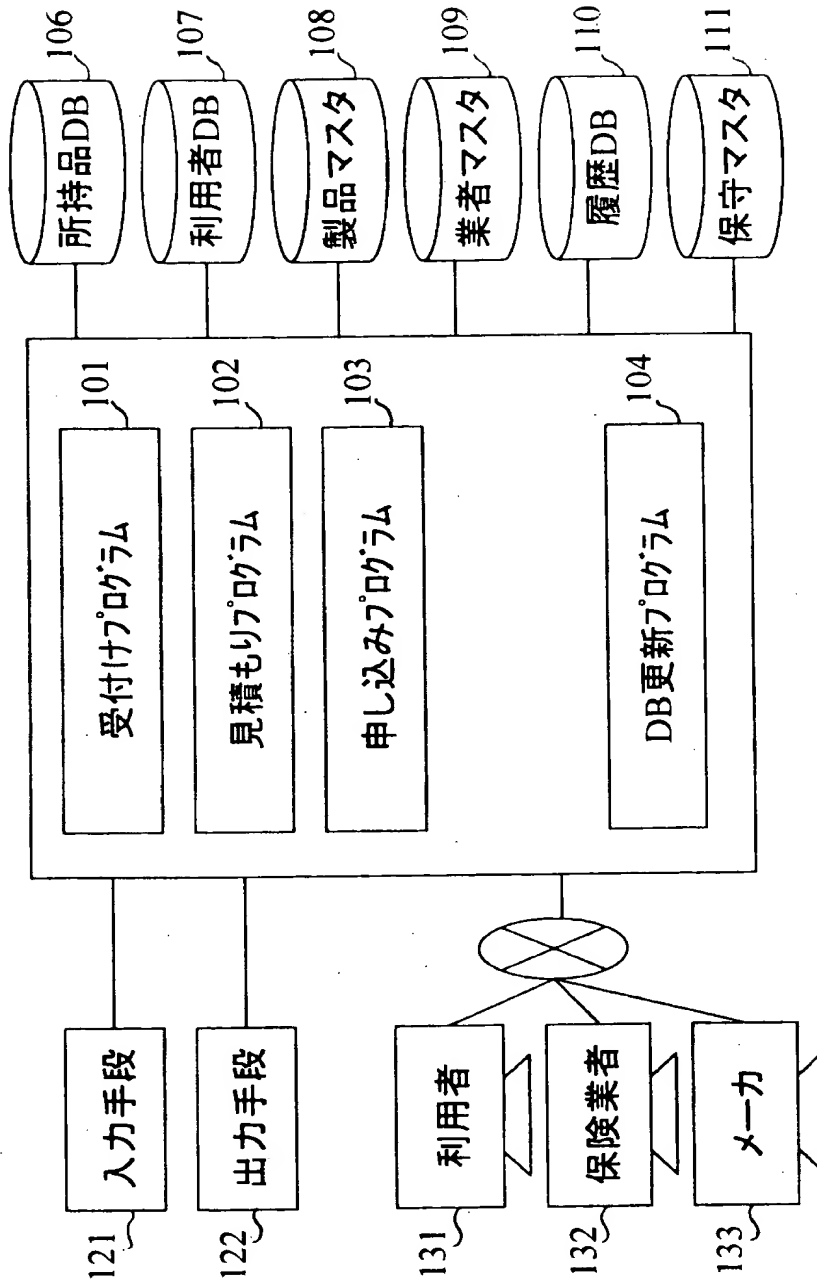
【符号の説明】

- 1 0 1 受付けプログラム
- 1 0 2 見積もりプログラム
- 1 0 3 申し込みプログラム
- 1 0 4 DB 更新プログラム
- 1 0 6 所持品 DB
- 1 0 7 利用者 DB
- 1 0 8 製品マスタ

- 1 0 9 業者マスタ
- 1 1 0 履歴DB
- 1 1 1 保守マスタ
- 1 2 1 入力手段
- 1 2 2 出力手段
- 1 3 1 利用者端末
- 1 3 2 保険業者端末

【書類名】 図面

【図 1】



【図 2】

＜調べたい内容を指定して下さい＞	
○仕様/スペックを調べたい	○取扱店を調べたい
○保証期間を確認したい	○消耗品を調べたい
○使い方を調べたい	●保険に加入したい
○手入れ方法を調べたい	○保険を利用したい
＜製品を指定して下さい＞	
製品種別	パソコン
製品名	PC-A
メーカー	F社
型名	FGHC453
製造番号	R66060
購入年月	1998/12
	登録済製品から選択
	この製品を登録
	他の製品も入力
	実行

【図3】

＜保険加入 - 見積もり結果＞

申込対象製品

製品種別	メーカー	製品名	型名	製造番号
パソコン	F社	PC-A	FMVC453	R66060
冷蔵庫	M社	X冷蔵庫	MP55A71	T12600

利用者IDを入力して下さい:

10714

新規登録

申し込む保険を選択して下さい

	会社名	保険名	保険種別	保険期間	保険料
<input type="checkbox"/>	A保険	破損AA	破損	1.5年	2台で5000円
<input type="checkbox"/>	B保険	盗難BB	盗難	5年	1台毎に10000円
<input checked="" type="checkbox"/>	C保険	修理CC	出張修理	3年	2台で9000円
<input type="checkbox"/>	C保険	盗難CC	盗難	3年	2台で30000円

保険申込

【図4】

<C保険会社 見積もり回答>

申込対象製品

製品 種別	メーカー	製品名	型名	製造 番号	製造 年月	購入 年月	保証 期間	基本 技術料	修理 履歴
パソコン	F社	PC-A	FGHC453	R66060	1998/10	1998/12	6ヶ月	5000円	ナシ
冷蔵庫	M社	X冷蔵庫	MP55A71	T12600	1997/06		1年	4800円	ナシ

見積もり回答を入力して下さい

保険名	保険種別	保険期間	保険料
修理CC	出張修理	3年	2台で9000円
盗難CC	盗難	3年	2台で30000円

回答送信

【図5】

利用者ID	所持品ID	製品種別	メーカー名	製品名	型名	製造番号	購入年月	購入業者名	取引ID-1	取引ID-2
10714	1	パソコン	F社	PC-A	FGHC453	R66060	1998/12	F-WebMart	K-19991007-01	H-20000607-01
10715	1	テレビ	S社	Zテレビ	SNTV315	G72800	1990/07	スーパーY	S-19991205-01	
10714	2	冷蔵庫	M社	X冷蔵庫	MP55A71	T12600			H-20000607-02	

..	取引ID-n

【図 6】

利用者ID	登録日時	氏名	住所	郵便番号	電話番号	電子メールアドレス	クレジットカード番号
10714	1999/10/07 9:48	青山 太郎	東京都XX区...	123-1234	03-1234-5678	taro@aaa.com	1234-5678-9000
10715	1999/12/05 21:00	柿本 花子	福岡県XX市...	987-9876	09-9876-5432	kaki@hkt.com	
10716	2000/06/10 14:30	佐川 健太					

【図7】

メーカー名	製造番号	製品名	型名	製造年月	保証期間
F社	R66010～R67000	PC-A	FGHC453	1998/10	製造後6ヶ月
F社	R44200～R45000	PC-SERVER	FGSVR10	1998/11	製造後6ヶ月
S社	G72441～G73500	Zテレビ	SNTV315	1990/06	製造後1年
M社	T12440～T13000	X冷蔵庫	MP55A71	1997/06	製造後1年

【図8】

会社名	連絡先	取扱保険種別
A保険	AA@a-hoken.com	破損
B保険	BB@b-hoken.com	盗難
C保険	CC@c-hoken.com	盗難、出張修理

【図9】

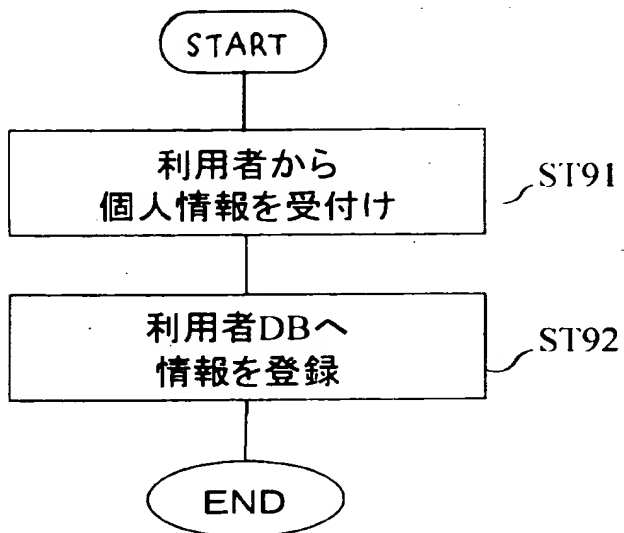
取引ID	取引種類	取引品名	取引開始日時	取引完了日時	取引業者	代金	支払い方法
K-19991007-01	消耗品購入	感熱紙	1999/10/07 9:50	1999/10/07 13:00	F社	2500円	振込
S-19991205-01	修理	電源コード	1999/12/05 21:00	1999/12/15 12:00	M保守社	1500円	現金
H-20000607-01	保険加入	本体(出張修理)	2000/06/07 14:30	2003/06/07	C保険会社	9000円	カード
H-20000607-02	保険加入	本体(出張修理)	2000/06/07 14:30	2003/06/07	C保険会社	0円	カード

【図 1 0】

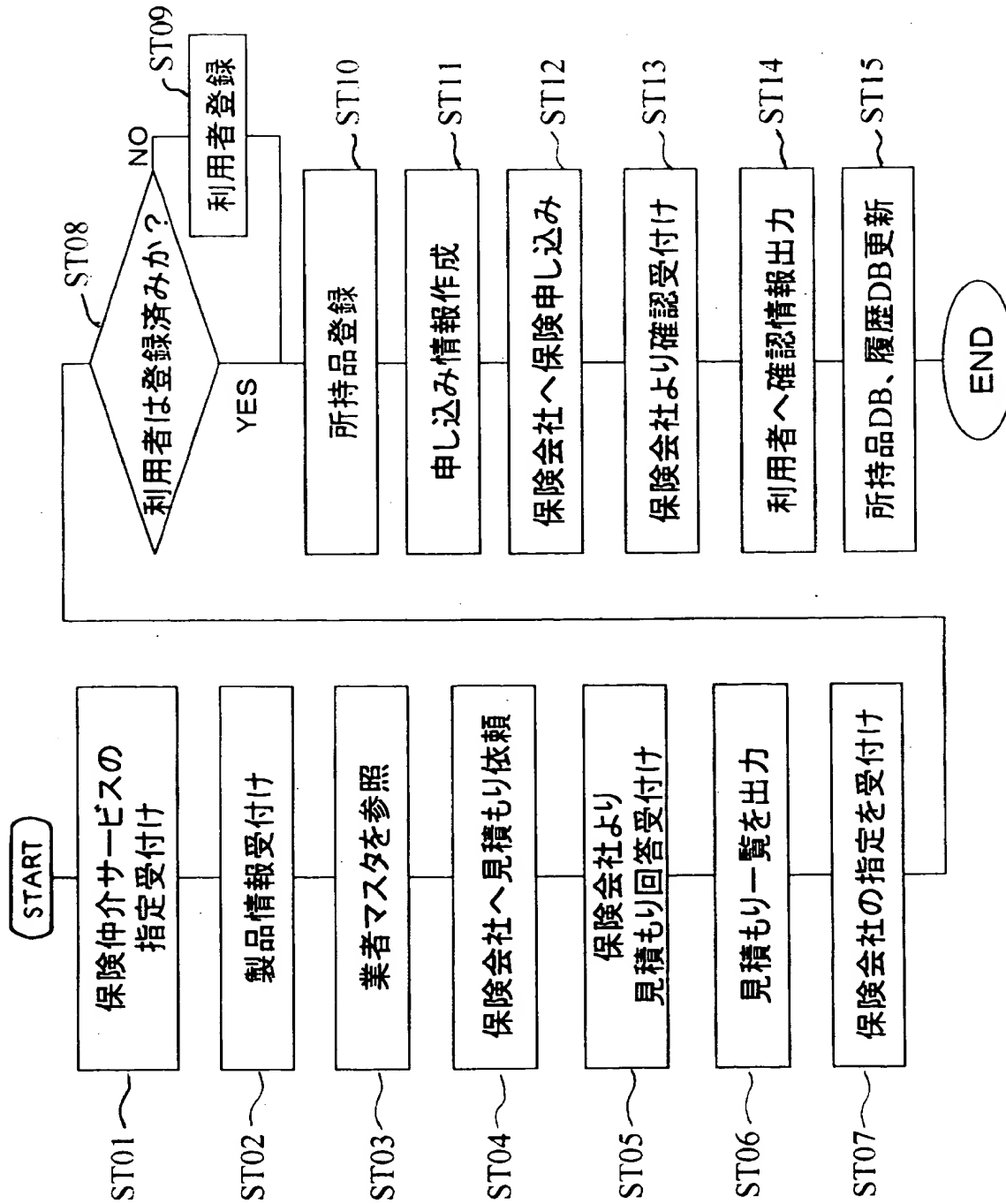
カテゴリ：冷蔵庫

メーカー	無償修理期間		起算時点	保守拠点数 (全国)	基本技術料	
	訪問修理	待込み修理				基本時間
M社	設定無し	12ヶ月	製造後	60ヶ所	4,800	2時間
S社	設定無し	6ヶ月	販売時	70ヶ所	6,000	3時間
A社	12ヶ月	24ヶ月	製造後	33ヶ所	3,800	1時間

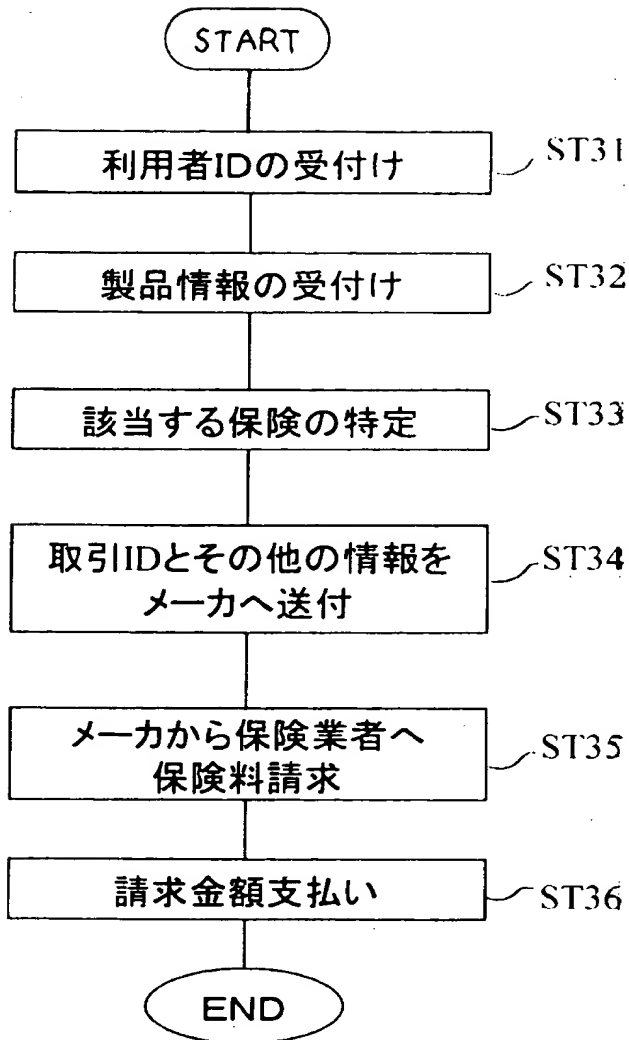
【図 1 1】



【図 1 2】



【図 1 3】



【要約】

【解決手段】上記の課題は、利用者の所有している製品の購入に関する情報を保存する保存手段を備え、前記保存手段に保存された製品の購入に関する情報を元に、製品に関する保険の依頼を送信することで解決される。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005223]

1. 変更年月日	1996年 3月26日
[変更理由]	住所変更
住 所	神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号
氏 名	富士通株式会社